

「『外来語』 言い換え提案」についての一考察 (2)

—秋田高専専攻科学生の理解度調査から—

手 島 邦 夫

A Study of "Suggestions for Paraphrasing Loanwords" II —From the Survey of Understanding by the Postgraduate Course Students of Akita National College of Technology—

Kunio TESHIMA

(平成20年11月28日受理)

This study is the second report on the understanding loanwords by the postgraduate course students of Akita National College of Technology based on "Suggestions for Paraphrasing Loanwords" by The National Institute for Japanese Language. According to the results of this survey, the understanding of the students are higher than the public and the young men in their twenties, because of their youth and the environment of National College of Technology. And in the fields of "information" and "economy and industry", they understand well, but they do not understand very much in the ones of "administration" and "management".

1. はじめに

本稿は手島邦夫(2008.2)における2006年度の調査結果と、新たに2007年度に行った調査結果とを合算し、本校専攻科学生の外来語の意識実態を、より正確に、またより詳細に明らかにすることによって、「外来語の言い換え問題」の考察に寄与せんとするものである。

周知のように難解な外来語(カタカナ語)の氾濫の現状を踏まえ、国立国語研究所(以下国研と略称)では平成14年8月に「外来語」委員会を設置、翌15年4月に「第1回『外来語』言い換え提案」を発表、その後3度の発表を経て平成18年3月に総集編(以下文献①と略称)を刊行した。

本稿は文献①に示された外来語とその言い換え語のデータを基に、以下のことを明らかにしようとするものである。

- (1) 2006年度に調査した本校専攻科1年生の外来語の「理解度」は、「提案」における全年齢層を平均した時の理解度をかなり上回っていたが、それは2007年度の結果を加えても同様であるか。
- (2) 高専学生の個々の外来語理解の特徴については、2006年度の調査では「情報」と「経済産業」

分野の理解度が高く、「行政」と「経営」分野の理解度が低かったが、それは2007年度の結果を加えても同様であるか。またその他の特徴があるか。

2. 国研による提案の趣旨と問題点

手島(2008.2)においてもふれたが、国研編『外来語と現代社会』(以下文献②と略称)では、外来語氾濫の問題点として、日本語のよき言葉や伝統が崩れていくことと、日常生活での情報のやり取りや意思疎通に支障が生じるという点を挙げる。

前者の「伝統重視」と後者の「機能重視」に対し、この「『外来語』言い換え提案」(以下「提案」と略称)は、後者の「機能重視」の立場でなされたことを記している。文献②における提案の趣旨は次の通りである(33頁)。

- ① 公共性の高い場面で外来語をむやみに多用すると、円滑なコミュニケーションに支障が生じる。
- ② 特に官庁・自治体、報道機関などでは、それぞれの指針に基づいて、言い換えや注釈などにより、受け手の理解を助ける必要がある。
- ③ この提案は、そのための基本的な考え方と基礎資料を、具体的に提供するものである。

以上は概ね納得できるものであるが、管見では、現在大多数の人が理解できない外来語でも、繰り返し用いられているうちに次第に定着していくということはありうる。それは新語や流行語の例でも見られることである。いうまでもなく語の難解さの程度というものは増減してゆくものであり、本提案も、現時点における状況であり改善案であるということは留保しておかねばならないだろう。

3. 調査の概要

2007年度の調査は、平成19年11月29日の2時限目に専攻科棟の講義室Iで実施。対象は専攻科1年生23名（男22名・女1名）である。外来語176語とその言い換え語を記した一覧表を作成して配布し、外来語とその言い換え語を比較させ、被験者にとって「どちらが分かりやすいか」という点で○をつけさせた。言い換え語を選ぶ場合、複数ある場合はそのうちの一つだけに○を付すように指示したが、結果的に二つ○がついた語や全くついてない語も若干あり、それは末尾の集計一覧の「合計数」の異なりとなって表れている。

配布した一覧表では、文献①から代表的な言い換え語を選んだ。それらは文献②の「参考資料」の一覧（105～115頁）における「言い換え語」とは概ね一致したが、それ以外に「その他の言い換え語例」からも、筆者の判断により加えたものがある。

以上の調査方法は2006年度と同じである。

4. 調査結果

2006年度と2007年度とを合算した調査結果の一覧は、末尾の表の通りである。通し番号順ではなく、外来語につけた○の多い順（専攻科生にとり外来語の方が分かりやすい順）である。言い換え語で複数あるものは左・右の、三つあるものは中も加えて内訳を示している。「理解度」のA～Eのランク付けは、文献①②の基準にそって設けた。

文献①②では、★☆☆により理解度を次のように示している。

★☆☆☆ その語を理解する人が国民の4人に1人に満たない段階

★★☆☆ その語を理解する人が国民の2人に1人に満たない段階

★★★★☆ その語を理解する人が国民の4人に3人に満たない段階

★★★★★ その語を理解する人が国民の4人に

に3人を超える段階

本稿では以上の段階を次のようにランク分けして「全体理解度」の欄に示した。手島邦夫（2008.2）では★★★★の語をDとしたが、本稿では、それをさらに、以下のようにDとEに区分した。

理解度 75～100%……A
50～74% ……B
25～49% ……C
11～24% ……D
0～10% ……E

またA～Dの基準により、今回の調査では外来語の方に○を付した人数で各語を次のように区分した。

38～50人 ……A
25～37人 ……B
13～24人 ……C
6～12人 ……D
0～5人 ……E

文献②の記述によれば、Aは「既に十分に定着している外来語」、Bは「定着に向かって進行しつつあるが」、「幅広い層の人に理解してもらう必要のある場合には、何らかの手当てが必要な語」、Cは「現状では、外来語のままで用いることは避けたい」が「今後、普及・定着に向かう可能性はある」語、D・Eの語は「最も分かりにくい外来語であり、公的な場面でそのまま用いることは避けるべき」語である。

Eをもうけたのは、理解度が10%以下の語は、「きわめて難解な外来語としてそのままでの使用を抑制すべき」語であると考えたためである。

5. 考察

5.1 A～E各段階の傾向について

「提案」による外来語の、本調査による高専専攻科生の理解度と、国研調査による国民全体の理解度、さらに本稿では、国研調査による20代の理解度を追加して比較した表を示すと、次の通りである。三者の各数値は176語における語数を示す。

理解度A（十分に定着している外来語）の語については、専攻科生の理解度が「国民全体」を大きく

理解度 (%)	区分	解答数	専攻科生	国民全体	20代
75%以上	A	38～50	43	3	22
74～50%	B	25～37	38	31	25
49～25%	C	13～24	35	38	46
24～11%	D	6～12	43	62	52
10%以下	E	0～5	17	42	31

上回っている。「20代」は「全体」よりは理解度が高いが、やはり専攻科生は「20代」をも上回っている。Bについても同じことがいえ、C・D・E（とくに難解な外来語）になると専攻科生の方が、「全体」や「20代」を下回っている。

この結果は、手島（2008.2）で示した結果と同様の傾向を示している。年齢が若くなるにつれ外来語の理解度が高くなることは『国立国語研究所報告126』（文献④）の調査に示されており、また学生の専門が工業分野であることから、予想されていたことではあるが、やはり外来語の理解度は、各年代を合わせた全体、さらに20代の他の若者の層より高いことがわかった。

手島（2008.2）でも述べたことであるが、高専の学生の学力は、入学前の中学三年生の時点で比較的上位にあるとされ、さらに専攻科生については、本科から推薦によって進級する場合クラスの中位より上にあることが条件となるため、そうした相対的な学力の高さが一因と考えられる。また「工業高専」という学校の性質上、パソコンの操作や工業科目の実験や演習が多く、片仮名による外来語に接する機会が他の同年代の若者より多いと推定されることも、理解力の高い一因となっているものと思われる。

5.2 特徴的な各語について

5.2.1 とくに理解度が高かった外来語

理解度Aの語のうち、高専の専攻科生50人中45人以上（9割以上）が理解できると選んだ10語を取り上げたい。

外来語で最も理解できるとしたのは、

「トラウマ trauma ドイツ語」（49人）

「シミュレーション simulation」（48人）

の2語であった。どちらも「国民全体」ではBの語であるが、前者については、現代の若者の間によく定着している語である（『国立国語研究所報告126』（文献④）によれば20～29歳では77%の理解率である）。後者は工業科目での実験・実習において比較的良好に用いられる語である。

次に理解度が高いのは、47人が○にした

「アイドリングストップ（和製語）」

「ドナー donor」

の2語で、環境や医療をめぐる、ともに今日的な課題として頻りに耳にする語である。

45～46人が○にしたのは、

「アクセス access」

「インターンシップ internship」

「ナノテクノロジー nanotechnology」

「バリアフリー barrier-free」

「プレゼンテーション presentation」

「リバウンド rebound」

の6語で、これらは「国民全体」や「二十代」でも概ね理解度が高いが、「インターンシップ」と「ナノテクノロジー」の2語は、「全体」ではD、「二十代」でもCの理解度であることが注目される。秋田高専では4年時の夏休みにこの「インターンシップ」（就業体験）が行われていること、また相対的に現代の先端的な技術に明るいということが他以上の理解力の高さに表れているといえよう。

以上の理解度はどの分野の外来語について高いのであろうか。高専の専攻科生のAの語43語の分野を『分かりやすく伝える 外来語言い換え手引き』（文献③202～204頁）によって分けると、「情報」10語、「経済産業」7語、「共通」6語、「医療」4語、「教育・環境・科学技術」各3語、「行政・福祉・安全」各2語、「経営」1語という結果であった。

これらの分野を示す語は176語の中にしめる語数が異なるため、語数で割った比率を出すと、

「情報」10/17=59% 「共通」6/12=50%

「科学技術」3/7=43% 「医療」4/10=40%

「教育」3/10=30% 「経済産業」7/31=23%

「安全」2/10=20% 「環境」3/16=19%

「福祉」2/11=18% 「行政」2/26=8%

「経営」1/26=4%

という順位になり、「情報」「共通」「科学技術」「医療」が高く、「環境」「福祉」「行政」「経営」分野の語の理解度は低いことがわかった。

5.2.2 とくに理解度が低かった外来語

高専の専攻科生の理解度がE（10%以下）であった17語をまず取り上げる。

外来語で最も理解できないとしたのは、

「アジェンダ agenda」「コミット commit」

の2語。理解できるとしたのは50人中2人だけで、この2語はどちらも分野は「行政」である。

4人だけ理解できるとしたのは次の3語である。

「エンフォースメント enforcement」

「コンプライアンス compliance」

「パブリックコメント public comment」

5人が理解できるとしたのは次の12語である。

「アカウントビリティ accountability」

「インキュベーション incubation」

「オフサイトセンター off-site center」
「ガバナンス governance」
「キャッチアップ catch-up」
「コミットメント commitment」
「コンソーシアム consortium」
「サーベイランス surveillance」
「パブリックインボルブメント public involvement」
「フェローシップ fellowship」
「ボトルネック bottleneck」
「ロードプライシング road pricing」

以上の17語の分野を見ると、「行政」7語、「経営」4語、「医療・経済産業・教育・環境・安全・共通」各1語となり、「行政」と「経営」分野の理解がとくに低い。この結果はやはり、「文系」とくに「社会科学系」の分野の外来語の理解度が低いことを示していると言えよう。

ただしこれら17語は、「国民全体」「二十代」でもEかDで、全体的に難解とされる語である。これらのうち「キャッチアップ」「ボトルネック」「パブリックコメント」「コミット」の4語は「全体」ではDで、専攻科生よりやや理解度が高い。

5.2.3 「国民全体」や「二十代」より理解度の差が大きな外来語

(1) 理解度が他よりとくに高い語

理解度において、「国民全体」や「二十代」がCで専攻科生がAというように、専攻科生の方が2段階以上高い理解を示している外来語は46語あった。

① 専攻科生がAで「全体」や「二十代」がCかDの語（原語省略，以下同じ）

- ・プロトタイプ（全体D，二十代D）
- ・インターンシップ（全体D，二十代C）
- ・ナノテクノロジー（同）・ポテンシャル（同）
- ・ログイン（同）・コラボレーション（同）
- ・コンテンツ（同）・タイムラグ（同）
- ・スキル（全体C，二十代C）・マクロ（同）
- ・ヒートアイランド（同）・ボーダーレス（同）
- ・コンセプト（全体C，二十代B）
- ・ポジティブ（同）・バーチャル（同）
- ・ハイブリット（同）・アミューズメント（同）
- ・グローバル（同）・ツール（同）ベンチャー（同）

② 専攻科生がBで「全体」や「二十代」がDかEの語

- ・バイオマス（全体E，二十代E）・オンデマンド（全体E，二十代D）・アーカイブ（同）
- ・アナリスト（全体D，二十代D）・インフラ（同）
- ・カスタムメイド（同）・ハザードマップ（同）
- ・リユース（同）・コア（全体D，二十代C）
- ・アイデンティティ（同）・サムターン（同）
- ・グローバルゼーション（同）・タスク（同）
- ・ミッション（同）・デフォルト（同）
- ・インサイダー（全体C，二十代D）

③ 専攻科生がCで「全体」「二十代」がEの語

- ・レシピエント（全体E，二十代E）
- ・ゼロエミッション（同）・タスクフォース（同）
- ・コージェネレーション（同）
- ・インタラクティブ（全体E，二十代D）
- ・リデュース（同）・フィルタリング（同）
- ・ブレイクスルー（同）・モビリティ（同）
- ・グランドデザイン（全体D，二十代E）

以上の46語の分野内訳は、

「経済産業」9語、「情報」8語、「環境」7語、「共通」6語、「教育・経営」4語、「安全」3語、「科学技術」2語、「医療・行政・福祉」各1語という結果であった。これらの分野を示す語を、前述のように176語の中にしめる語数で割った比率は、

「共通」6/12=50% 「情報」8/17=47%
「環境」7/16=44% 「教育」4/10=40%
「安全」3/10=30% 「経済産業」9/31=29%
「科学技術」2/7=29% 「経営」4/26=15%
「医療」1/10=10% 「福祉」1/11=9%
「行政」1/26=4%

となり、「共通」「情報」「環境」「教育」の分野において、とくに国民全体や二十代に比較して理解度が高いことがわかった。

またAとD、BとEのように、（とくに「全体」と）3段階以上の差で理解が高いのは、「インターンシップ」「ナノテクノロジー」「ポテンシャル」「ログイン」「コラボレーション」「コンテンツ」「タイムラグ」「プロトタイプ」「バイオマス」「オンデマンド」「アーカイブ」などであった。

これらの分野は順に、教育・科学技術・教育・情報・共通・情報・共通・科学技術・環境・情報・情報であり、「情報」が最も多い。これらはやはり、工業高専という環境の中でとくに多く触れる機会がある外来語と考えられる。

(2) 理解度が他より低い語

一方少数ではあるが、「国民全体」や「二十代」より理解度が低い外来語がある。

① 「国民全体」より理解度が低い語

() に分野とランクの違いを示す。

- ・デイサービス (福祉・全体A→専攻科B)
- ・シンクタンク (行政・全体C→専攻科D)
- ・ワークショップ (教育・全体C→専攻科D)
- ・スクーリング (教育・全体C→専攻科D)
- ・フォローアップ (経営・全体C→専攻科D)
- ・コミュニケ (行政・全体C→専攻科D)
- ・キャッチアップ (経済産業・全体D→専攻科E)
- ・ボトルネック (共通・全体D→専攻科E)
- ・パブリックコメント (行政・全体D→専攻科E)
- ・コミット (行政・全体D→専攻科E)

② 「二十代」より理解度が低い語

- ・マネジメント (経営・二十代A→専攻科B)
- ・マーケティング (経営・二十代A→専攻科B)
- ・デリバリー (経済産業・二十代A→専攻科B)
- ・トレンド (経済産業・二十代A→専攻科B)
- ・ライブラリー (情報・二十代A→専攻科B)
- ・シンクタンク (行政・二十代C→専攻科D)
- ・プレゼンス (行政・二十代C→専攻科D)
- ・ワークショップ (教育・二十代B→専攻科D)
- ・リーフレット (行政・二十代C→専攻科D)

以下スクーリング・フォローアップ・コミュニケ・キャッチアップ・ボトルネック・パブリックコメント・コミットの各語は「全体」と同じである。

以上から、行政10語、教育・経営・経済産業の各4語が他より低く、とくに「行政」分野の外来語の理解度が低いことがわかった。

6. まとめ

- (1) 本校専攻科1年生の外来語の「理解度」は、「提案」における全年齢層を平均した時の理解度を、さらに二十代の若者の理解度をかなり上回っていた。この結果は、手島邦夫(2008.2)と同様である。それは20～21歳という二十代でもとくに若い層であることや、比較的高い学力であることに加え、工業高専という環境にも影響されていると

考えられる。これを外来語の側からみれば、全年齢層の中では、工業高専の学生には理解が定着しつつあるものが相対的に多い、ということが言えよう。

- (2) 一方個々の外来語の理解度には分野ごとにバラつきがあり、「情報」がとくに高く、数や比率の面で「共通」「経済産業」「医療」などの分野も高く、反対に「行政」と「経営」の分野でとくに理解度が低いことがわかった。このことは現在の若者一般の傾向とも共通しており、さらに工業高専という環境が影響しているものと考えられた。

7. おわりに

次頁以降には、調査結果の一覧を掲げ、とくに末尾には分野ごとの各層の理解度をグラフで示した。

本調査により外来語理解の特質の一端が明らかにされたと考えるが、こうした調査と考察は今後も継続していくこととしたい。

問題点としては、調査方法として外来語とその言い換え語とを並べて「わかりやすい方」に○を付するというやり方をとっており、その結果外来語に○を付しやすかったということがあるかもしれない。

その他触れることのできなかった外来語に関する課題は多く、ご批評をいただければ幸甚である。

参考文献

- ① 『『外来語』言い換え提案 第1回～第4回総集編』国立国語研究所「外来語」委員会編(2006.3)
- ② 『外来語と現代社会』(新「ことば」シリーズ19)国立国語研究所編(2006.3)
- ③ 『分かりやすく伝える 外来語言い換え手引き』国立国語研究所「外来語」委員会編(ぎょうせい, 2006.8)
- ④ 『公共媒体の外来語—「外来語」言い換え提案を支える調査研究—』国立国語研究所報告126(2007.3)
- ⑤ 田中牧郎『『外来語言い換え提案』とこれから』『月刊言語』(Vol36-6, pp.72-79, 2007.6)
- ⑥ 手島邦夫『『外来語』言い換え提案』についての一考察—秋田高専専攻科学生の理解度調査から—秋田高専研究紀要第43号(2008.2)

「提案」 通し番号	外来語	外来語 回答数	言い換え語	言い換え 語回答数	左	右	中	合計	外来語 理解度	全体理 解度	二十代 理解度	分野
99	トラウマ	49	心の傷・心的外傷	1	1	0		50	A	B	A	医療
67	シミュレーション	48	模擬実験	2	2			50	A	B	A	情報
3	アイドルングストップ	47	停車時エンジン停止	3	1			50	A	B	B	環境
98	ドナー	47	臓器提供者・資金提供国	3	3	0		50	A	B	A	医療
8	アクセス	46	接続・交通手段・参入	3	2	1	0	49	A	B	A	情報
19	インターンシップ	46	就業体験	4	3			50	A	D	C	教育
102	ナノテクノロジー	46	超微細技術	4	2			50	A	D	C	科技
117	バリアフリー	46	障壁なし・段差なし	4	4	0		50	A	B	A	福祉
129	プレゼンテーション	46	発表・説明	4	4	0		50	A	B	A	情報
167	リバウンド	45	揺り戻し・反動・反発	5	1	1	3	50	A	B	A	医療
21	インパクト	44	衝撃	6	4			50	A	A	A	共通
52	コンセプト	44	基本概念	6	5			50	A	C	B	共通
80	セキュリティー	44	安全・防犯	6	6	0		50	A	B	A	安全
136	ポジティブ	44	積極的・肯定的	6	6	0		50	A	C	B	共通
137	ポテンシャル	44	潜在能力・可能性	6	4	2		50	A	D	C	教育
143	マルチメディア	44	複合媒体	6	4			50	A	B	A	情報
61	サプリメント	43	栄養補助食品	7	5			50	A	B	A	医療
70	スキル	43	技能・技術	7	6	1		50	A	C	C	教育
106	バーチャル	43	仮想・仮想世界	7	5	2		50	A	C	B	情報
111	ハイブリット	43	複合型・複合物	7	7	0		50	A	C	B	環境
160	リアルタイム	43	即時・同時	7	6	1		50	A	B	A	情報
172	ログイン	43	接続開始・利用開始	7	5	2		50	A	D	C	情報
33	ガイドライン	42	指針・手引き	8	4	4		50	A	B	B	行政
65	シェア	42	占有率・分かち合う	7	6	1		49	A	B	B	経産
66	シフト	42	移行・転換	8	6	2		50	A	B	A	経産
109	バイオテクノロジー	42	生命工学・生物工学	8	5	3		50	A	B	B	科技
12	アミューズメント	41	娯楽	9	5			50	A	C	B	情報
42	グローバル	41	地球規模・全地球的	9	8	1		50	A	C	B	経産
118	ヒートアイランド	41	都市高温化・熱の島	9	9	0		50	A	C	C	環境
140	マクロ	41	巨視的	9	5			50	A	C	C	経産
158	ライフライン	41	生活線・生命線	9	3	6		50	A	B	B	安全
166	リニューアル	41	刷新・一新	9	4	5		50	A	B	A	経産
51	コラボレーション	40	共同制作・協働	10	9	1		50	A	D	C	共通
113	バックアップ	40	支援・控え	10	10	0		50	A	B	B	共通
145	ミスマッチ	40	不釣り合い・不調和	10	10	0		50	A	B	A	経産
43	ケア	39	手当て・介護	11	6	5		50	A	A	A	福祉
91	ツール	39	道具・手段	11	10	2		50	A	C	B	情報
120	ビジョン	39	展望・画面	11	11	0		50	A	B	A	行政
133	ベンチャー	39	新興企業・起業	11	10	2		50	A	C	B	経営
55	コンテンツ	38	情報内容・中身・番組	12	9	2	1	50	A	D	C	情報
87	タイムラグ	38	時間差・遅れ	12	12	1		50	A	D	C	共通
131	プロトタイプ	38	原型・試作品	12	9	4		50	A	D	D	科技
134	ボーダーレス	38	無境界・脱境界	12	12	0		50	A	C	C	経産
39	クライアント	36	顧客・利用者・患者	14	14	0	0	50	B	C	B	経産
92	デイサービス	36	日帰り介護	14	6			50	B	A	B	福祉
142	マネジメント	36	経営管理	14	7			50	B	B	A	経営
2	アイデンティティ	35	独自性・自己同一性	15	14	1		50	B	D	C	教育
74	スタンス	35	立場・姿勢	15	11	4		50	B	C	C	共通
139	マーケティング	35	市場戦略・市場調査	15	14	2		50	B	B	A	経営
150	モチベーション	35	動機付け・意欲・やる気	15	8	3	4	50	B	C	B	共通
50	コミュニティー	34	地域社会・共同体	16	11	6		50	B	B	B	行政
96	デリバリー	34	配達・宅配	16	14	4		50	B	C	A	経産
156	ユニバーサルデザイン	34	万人向け設計	16	10			50	B	C	C	福祉
169	リリース	34	発表・公開・発売	16	10	4	2	50	B	B	B	経産
11	アナリスト	33	分析家・専門家	17	13	4		50	B	D	D	経産
23	インフラ	33	社会基盤	17	10			50	B	D	D	経産
45	コア	33	中核・核・中心	17	10	4	4	50	B	D	C	共通
101	トレンド	33	傾向・流行	17	8	11		50	B	B	A	経産
147	メディカルチェック	33	医学的検査・健康診断	17	8	9		50	B	B	B	医療
17	インサイダー	32	内部関係者	18	9			50	B	C	D	経産
63	サムターン	32	内鍵つまみ	18	11			50	B	D	C	安全
151	モニタリング	32	継続監視	18	11			50	B	C	C	安全
157	ライフサイクル	32	生涯過程・一生涯	18	14	4		50	B	B	B	福祉
35	カスタムメイド	31	特注生産	19	9			50	B	D	D	経産
41	グローバリゼーション	31	地球規模化	19	9			50	B	D	C	経産
88	タスク	31	作業課題	19	10			50	B	D	C	経営
159	ライブラリー	31	図書館・資料館	19	19	0		50	B	B	A	情報
110	バイオマス	30	生物由来資源	20	12			50	B	E	E	環境

「『外来語』言い換え提案」についての一考察 (2)

「提案」 通し番号	外来語	外来語 回答数	言い換え語	言い換え 語回答数	左	右	中	合計	外来語 理解度	全体理 解度	二十代 理解度	分野
146	ミッション	30	使節団・使命・任務	20	8	4	8	50	B	D	C	経営
32	オンデマンド	28	注文対応	22	11			50	B	E	D	情報
94	デフォルト	28	債務不履行・初期設定	22	6	16		50	B	D	C	経産
105	ノンステップバス	28	無段差バス	22	11			50	B	C	B	福祉
112	ハザードマップ	28	災害予測地図・防災地図	22	18	4		50	B	D	D	安全
1	アーカイブ	27	保存記録 記録保有館	23	23	0		50	B	E	D	情報
31	オペレーション	27	公開市場操作・作戦行動	23	14	10		50	B	B	B	経産
78	セーフティーネット	27	安全網・安全対策	23	16	8		50	B	C	C	安全
81	セクター	27	部門・区域	23	20	3		50	B	C	C	経産
132	フロンティア	27	新分野・最前線	23	21	2		50	B	C	C	科技
107	パートナーシップ	26	協力関係	23	12			49	B	B	B	経営
168	リユース	26	再使用	24	10			50	B	D	D	環境
130	フレックスタイム	25	自由勤務時間制	25	10			50	B	C	B	経営
22	インフォームドコンセント	23	納得診療	27	15			50	C	D	D	医療
174	ワークシェアリング	23	仕事の分かち合い	27	12			50	C	C	C	経産
46	コージェネレーション	22	熱電供給	28	13			50	C	E	E	環境
56	コンファレンス	22	会議・検討会議	28	27	1		50	C	D	D	経営
77	セーフガード	22	緊急輸入制限	28	16			50	C	C	C	経産
83	ゼロエミッション	22	排出ゼロ・ごみゼロ	28	26	3		50	C	E	E	環境
148	メンタルヘルス	22	心の健康・精神衛生	28	20	9		50	C	C	C	医療
29	オブザーバー	20	陪席者・監視員	30	12	12		50	C	C	C	行政
75	ステレオタイプ	20	紋切り型・画一的	30	18	13		50	C	C	C	共通
164	リデュース	20	ごみ発生抑制・ごみの減量	30	21	10		50	C	E	D	環境
121	フィルタリング	18	選別・より分け	32	31	2		50	C	E	D	安全
126	ブレイクスルー	18	突破・打開	32	30	5		50	C	E	D	科技
152	モビリティ	18	移動性・流動性	32	31	2		50	C	E	D	福祉
155	ユニバーサルサービス	18	全国一律サービス	32	15			50	C	D	D	福祉
10	アセスメント	17	影響評価	33	18			50	C	D	C	環境
14	イニシアチブ	17	主導・発議	33	31	3		50	C	C	C	行政
15	イノベーション	17	技術革新	33	14			50	C	D	D	科技
86	ソリューション	17	問題解決	33	14			50	C	D	C	情報
44	ケーススタディ	16	事例研究	34	14			50	C	D	C	教育
79	セカンドオピニオン	16	第二診察	34	16			50	C	D	D	医療
20	インタラクティブ	15	双方向的・対話的	34	27	7		49	C	E	D	情報
62	サマリー	15	要約・要旨	35	31	6		50	C	D	D	行政
154	モラルハザード	15	倫理崩壊・倫理欠如	35	31	6		50	C	D	D	経営
173	ワーキンググループ	15	作業部会	35	18			50	C	C	C	経営
13	アメニティー	14	快適環境	36	18			50	C	D	D	経産
40	グランドデザイン	14	全体構想	36	15			50	C	D	E	行政
89	タスクフォース	14	特別作業班	36	14			50	C	E	E	経営
125	フリーランス	14	自由契約	36	18			50	C	D	D	共通
127	フレームワーク	14	枠組み	36	16			50	C	D	D	行政
170	レシピエント	14	移植患者・臓器受容者	36	27	10		50	C	E	E	医療
58	コンポスト	13	たい肥・生ごみたい肥化装置	37	31	7		50	C	D	D	環境
90	ダンピング	13	不当廉売	37	17			50	C	C	C	経産
95	デポジット	13	預かり金	37	19			50	C	D	D	環境
141	マスタープラン	13	基本計画	37	15			50	C	C	C	行政
144	マンパワー	13	人的資源・労働力	37	25	13		50	C	D	C	経営
4	アウトソーシング	12	外部委託・外注	38	30	9		50	D	D	D	経営
6	アクションプログラム	12	実行計画・行動計画	38	29	10		50	D	E	E	行政
27	オーナーシップ	12	所有権・主体性	38	34	4		50	D	D	D	経営
68	シンクタンク	12	政策研究機関	38	16			50	D	C	C	行政
104	ノーマライゼーション	12	等生化・共生化	38	19	19		50	D	D	D	福祉
128	プレゼンス	12	存在感・展開	38	30	9		50	D	D	C	行政
149	モータリゼーション	12	車社会化	38	14			50	D	D	D	経産
28	オピニオンリーダー	11	世論形成者	39	17			50	D	D	D	行政
64	シーズ	11	種	39	16			50	D	E	E	科技
76	ストックヤード	11	一時保管所	39	20			50	D	D	D	環境
163	リターナブル	11	回収再利用	39	18			50	D	E	D	環境
165	リテラシー	11	読み書き能力・活用能力	39	35	4		50	D	E	D	教育
73	スケールメリット	10	規模効果	40	18			50	D	D	D	経営
82	セットバック	10	壁面後退・敷地後退	40	38	3		50	D	D	D	環境
85	ソフトランディング	10	軟着陸	40	15			50	D	D	D	経産
7	アクセシビリティ	9	利用しやすさ・利便性	41	26	16		50	D	E	E	福祉
18	インセンティブ	9	意欲刺激・動機付け	41	29	13		50	D	E	D	経営
72	スクリーニング	9	ふるい分け・選別	41	19	23		50	D	D	D	安全
103	ネグレクト	9	育児放棄・無視	41	33	8		50	D	D	D	福祉
119	ビオトープ	9	生物生息空間	41	16			50	D	E	E	環境

「提案」 通し番号	外来語	外来語 回答数	言い換え語	言い換え 語回答数	左	右	中	合計	外来語 理解度	全体理 解度	二十代 理解度	分野
124	プライオリティー	9	優先順位	41	19			50	D	E	D	経営
153	モラトリアム	9	猶予・猶予期間	41	23	15		50	D	D	D	経産
175	ワークショップ	9	研究集会・創作集会	41	41	0		50	D	C	B	教育
34	カウンターパート	8	対応相手	42	16			50	D	E	E	経営
71	スクーリング	8	登校授業・面接授業	42	42	0		50	D	C	C	教育
93	デジタルデバイド	8	情報格差	42	16			50	D	E	D	情報
123	フォローアップ	8	追跡調査・事後点検	42	43	3		50	D	C	C	経営
26	オーガナイザー	7	まとめ役・世話役	43	41	3		50	D	D	D	経営
38	キャピタルゲイン	7	資産益	43	19			50	D	D	D	経産
49	コミュニケ	7	共同声明	43	17			50	D	C	C	行政
53	コンセンサス	7	合意	43	17			50	D	D	D	行政
84	センサス	7	全数調査・大規模調査	43	23	21		50	D	E	E	行政
114	バックオフィス	7	事務管理部門	43	18			50	D	E	E	経営
162	リーフレット	7	ちらし・パンフレット	43	26	18		50	D	D	C	行政
176	ワンストップ	7	一箇所・窓口一元化	43	39	4		50	D	D	D	情報
24	エンパワーメント	6	能力開化・権限付与	44	42	3		50	D	E	E	教育
60	サブライサイド	6	供給側・業界	44	37	7		50	D	E	E	経産
69	スキーム	6	計画・枠組み	44	36	10		50	D	D	D	行政
97	ドクトリン	6	原則	44	19			50	D	E	E	行政
100	トレーサビリティ	6	履歴管理	44	19			50	D	E	E	安全
108	ハーモナイゼーション	6	協調・調整	44	43	1		50	D	E	E	経産
135	ポートフォリオ	6	資産構成・作品集	44	39	6		50	D	E	E	経産
161	リードタイム	6	事前所要時間・開発期間	44	23	22		50	D	D	D	経営
5	アカウンタビリティ	5	説明責任	44	21			49	E	E	E	行政
16	インキュベーション	5	起業支援	45	19			50	E	E	E	経営
30	オフサイトセンター	5	原子力防災センター	45	19			50	E	E	E	安全
36	ガバナンス	5	統治	45	19			50	E	E	E	経営
37	キャッチアップ	5	追い上げ	45	21			50	E	D	D	経産
48	コミットメント	5	関与・確約	45	37	10		50	E	E	E	行政
54	コンソーシアム	5	共同事業体・共同企業体	45	37	8		50	E	E	E	経営
59	サーベイランス	5	調査監視	45	19			50	E	E	E	医療
115	パブリックインボルブメント	5	住民参画	45	21			50	E	E	E	行政
122	フェローシップ	5	研究奨学金	45	19			50	E	E	E	教育
138	ボトルネック	5	支障・障害	45	32	14		50	E	D	D	共通
171	ロードプライシング	5	道路課金	45	19			50	E	E	E	環境
25	エンフォースメント	4	法執行	46	21			50	E	E	E	行政
57	コンプライアンス	4	法令遵守	46	19			50	E	E	E	経営
116	パブリックコメント	4	意見公募	46	21			50	E	D	D	行政
9	アジェンダ	2	検討課題・議題	48	36	13		50	E	E	E	行政
47	コミット	2	かわる・確約する	48	40	9		50	E	D	D	行政

(注1) 紙幅の関係で原語の英語等は省略した。

(注2)「分野」での「経産」は「経済産業」,「科技」は「科学技術」の略称である。

